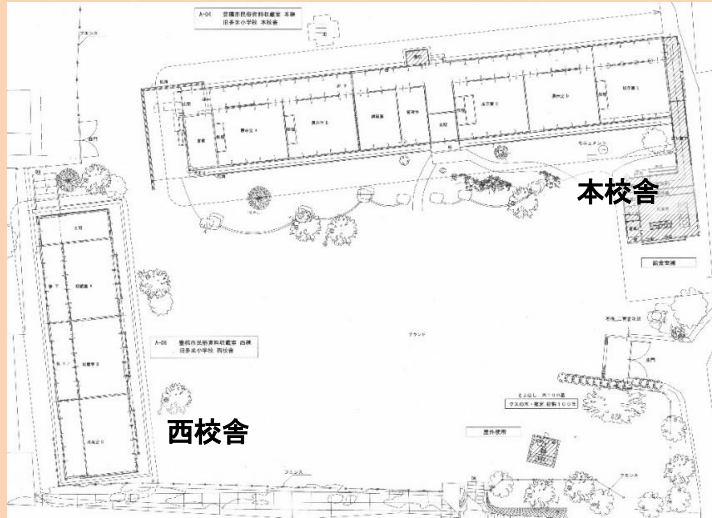


豊橋市民俗資料収蔵室西棟（旧多米小学校西校舎）：建築物
 1 棟/多米町字滝ノ谷 34-1-1/木造平屋建、瓦葺、建築面積 312 m²/昭和 29 年/豊橋市

豊橋市民俗資料収蔵室本棟及び西棟は、いずれも小学校の校舎として建てられた建物で、豊橋市内に残る唯一の木造校舎となっています。昭和 51 年 3 月に多米小学校が現所在地に移転すると、旧本校舎と旧西校舎の建物は民俗資料の展示や収蔵のための施設に用途変更され、昭和 53 年 5 月から豊橋市民俗資料収蔵室として開館しました。

豊橋市民俗資料収蔵室西棟は、敷地の西側に位置し、東面する木造平屋建切妻造の建物で、土間、収蔵室 3 室（旧理科室、旧教室 2 室）、廊下、出窓からなります。

建物基礎はコンクリート布基礎で、規模は南北桁行 33.633m、東西梁間 9.090m（桁行 18 間半、梁間 5 間）を測ります。出窓は 5.454m × 0.41m が東側に 3 か所見られます。出窓や縦長の嵌め殺し窓が付くなど洋風的な意匠で、当時ではモダンな学校建築であったと思われる。



出窓



全景

柱材は 5 寸角（桧材）で、軸組の構成は梁間方向には妻壁、間仕切り壁とも防火間仕切りのためか土壁塗りとし、桁方向には土壁塗りはありません。小屋組みはキングポストトラス組みで、金物に三角座金が使われるなど、旧西校舎より 10 年前竣工の旧本校舎に比べ仕様や技術的な進展が見られます。

屋根は桧掛瓦葺きで、軒先は箱庇が出窓を取り込んだ洋風的な学校建築となっています。外壁は、窓上まで鎧下見板張で、上部木摺り下地、色モルタル掻き落とし仕上げとなり、壁や間仕切りは大壁仕上げ、出窓は縦長角格子の引違ガラス戸で、出入り口を思わせる縦長の嵌め殺し窓が出窓の間に収まります。



小屋裏の様子